

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 2 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472300288		
法人名	株式会社ひまわりあくと		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	広島県大竹市南栄2丁目6-31 (電話) 0827-53-3130		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirgyosyoCd=3472300288-00&PrefCd=34&VersionCd=
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成30年2月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>3食の食事は手作りをし、提供している。また入居者様が出来る事は積極的にお願ひし、生活リハビリに役立てている。家族様と疎遠にならないように信頼関係を保ち、家庭的な雰囲気の中で支援している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームさくらは理念「利用者と職員がひとつの家庭として、共に暮らせるよう暖かい雰囲気の中で、生活をサポートしていきます」をつくり、玄関口とリビングにに掲示し生活の質の向上、安全で適切な暮らしの場の確保、信頼と満足の提供といった方針に基づいて日々の支援に取り組んでいる。住宅街に位置しており近隣はアパートが多く立ち並んでいる。町内会に加入していて、積極的に事業所周辺の掃除をし、地域の方と挨拶を交わしている。地域の餅つき大会に参加しぜんざいを頂いて交流している。玄関を入ると落ちついた雰囲気の中で、利用者が各々自由に過ごしている姿が見え、安心して暮らしている様子が伺える。医療機関と密に情報の交換が出来るように取り組んでいる。排泄の自立支援を心掛けており、紙おむつはできる限り使用することなく、トイレでの排泄が出来るように支援している。</p>

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リビング内に理念を掲げて職員全員で理念の共有を行っている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念「利用者と職員がひとつの家庭として、共に暮らせるよう暖かい雰囲気の中で、生活をサポートしていきます」をつくり、玄関口とリビングに掲示している。管理者や職員は、毎日の申し送り時に唱和し理念について確認し、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	12月10日に開催された餅つき大会に参加することが出来た。秋の大竹祭りは雨のため参加できなかった。	町内会に加入して餅つき大会に参加し、ぜんざいを食して交流している。事業所周辺の掃除を行っている。散歩時には、近隣の方と挨拶を交わし栽培されている果物(みかん)を頂き交流している。ボランティアの方々が歌や笛等披露して下さり利用者は楽しまれている。自治会副会長が地域の行事の案内を良く紹介して下さり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	まだ行動には至っていない。地域で高齢者が多いため何か役立つことを探していきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度運営推進会議を実施しており、利用者の暮らしぶりや取組みなどを報告している	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、介護保健課職員、包括支援センターの職員、老人クラブ代表・自治会副会長、民生委員・施設・管理者が出席している。会議ではホームの状況報告、行事の取組み等を報告して、出席者から意見、提案を頂き、それらの意見を会議で検討しサービス向上に活かしている。	運営推進会議への出席者が一定となっている為、多職種「消防署・警察官・幼稚園・保育園・中学校の先生等」の方への参加をお願いし、多くの方の意見を聞きサービス向上に活かされる事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町と連絡を取り、より良い関係が築けるようにしている、運営推進会議の時には出席をお願いしている	市とは、電話や直接出向いて、相談して助言を得たり、情報交換して協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に相談や情報交換している等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症支援の観点からも拘束は行っていないが、居室窓の鍵の開閉についてはご家族と話し合い、目が離せない方などについては閉めさせていただくなどの了解を得たりしている	身体拘束マニュアルがあり、職員は理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロックについては、ミーティングで話し合ったり、管理者が気がついた時に指導している。。外出したい利用者には、職員と一緒に出かけ、気分転換を行い、利用者が安心して過ごせるように工夫し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今年度参加できなかった		

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度を知るために必要に応じて学ぶ機会を設けている、めた制度を利用している入居者様もおられる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時は十分に説明しご理解、納得を戴いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン説明時面会時にご家族と話し、意見や希望はなるべく取り入れている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。常日頃から電話や面会時等で、家族から意見や要望を言い易いように工夫している。必要な事項はミーティング等で議題にして解決に向け話し合うようにしてそれを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員に意見は幾一、施設長に報告している	月1回の会議やカンファレンス時に事前に意見・要望・提案をメモ書きを記入し提出して、それらを検討している。職員は普段の業務中や申し送り時に管理者に意見や要望を話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間に関してはなかなか改善や変更することは難しいが、職員一人一人が気負いなく働けるように提案は続けていきたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修や社内研修を行い、合同ミーティング時に発表した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他ホームの管理者やケアマネとも交流を図り、意見交換をしている		

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	時間がかかることはあるがご本人様の要望には必ず耳を傾けて時間を作っている。家と同じような生活が出来るようになるべく希望を叶えられるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に困りごとにも十分に聞き、また何くを希望しているのかもききながら、信頼関係を築いていく努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設がどのようなサービスが出来るかを説明したうえでどんな支援が出来るかを話し合い、情報を共有していけるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ミーティング時に、介護される側の立場になって意見を出し合ったりし、一方的な介護にならないように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家庭でのご様子と当ホームでのご様子が必ずしも一致しない場合があることもしっかり相談報告しながらご本人様への支援をしご家族に気持ちも大切にするように努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご近所のかたが訪問されることもあり、楽しい時間を過ごしてもらっている	家族の面会や親戚の人、知人、友人の来訪があり楽しく過ごして頂けるように支援をしている。自宅周辺まで散歩したり、家族の協力を得て、なじみの美容院に行かれたり、外泊や外出、外食・法事に行く等馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が支えあうという事も大切な支援であることを職員にも理解してもらい関わり合いを大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても面会に行ったり家族も相談に乗って関係を断ち切らないようにしている		

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活環境を聞きながらご本人の意向も聞き本人本位に検討している	日々の関わりや雑談の中で聞き取った事や気づいた事はノートに記入し、職員間で情報の共有をしようとしている。生活歴はもとより、家族からも情報を得たり、本人とじっくり対話して、本人が望むここでの暮らし方や思いや意向を汲み取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活環境は入居時前の情報提供書だけではわからないことが多いため、ご家族にも情報を求めながら支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人ずつ「生活の記録」に記録をしその日何をされていたかを明記している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは作る前にはご家族にも相談し要望などを聞いている	介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。1ヶ月に1回のカンファレンスでは日々の観察の気づきをノートに記入したもの、現状の把握、家族、利用者の要望を取り入れ、チームとして一緒に考え、計画担当者が作成している。状態に変化があった場合、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「生活の記録」に日々の様子やそれに対する職員の対応も記載して、何か課題になるようなことがあれば、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	例えば、個別に買い物にお連れしたり、散歩したい時間に散歩に出るようにしたり臨機応変に対応できるように努力はしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の生活が拡充のために地域資源を活用し暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しており希望があれば他の病院に受診している、また在宅時からのかかりつけ医を利用されている方もあり自由にかかりつけ医を決めてもらっている	入所時にかかりつけ医等を確認、把握し本人や家族が安心して適切な医療を受けられるよう連携している。又、かかりつけ医とホームとでは、細かな連絡を取り指示を得て適切な医療を受けられるように支援している。その他の科を受診する場合は基本は家族にお願いしているが、職員も対応している。又、管理者が同行し、状態を説明する場合もある。	

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護師、協力病院の看護師に相談・指導をうけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携で情報を細かく報告・伝達し希望に添えるように努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族と医師との話し合い後、職員と家族との話し合いをして希望に添えるように努力している	「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき、家族等に説明をし、同意書を得ている。利用者や家族の意見を大切にしぎりぎりまで支援している。医師や看護師・家族・職員・関係各所とも連携を図り、考えを共有し支援に取り組んでいる。現在は看取りを行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の行動をシミュレーションし急な状態変化に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂き、その後も職員のみで確認するなどしている	昼・夜間想定を含む避難訓練を年2回行っており、その内1回は消防署の協力を得て行っている。水消火器による訓練や利用者も実際に玄関口まで避難している。訓練の記録を作成するとともに、反省会を行い、課題について話し合っている。地震対策や水害・津波についての検討会も行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々にあった声掛けをしその方が気分を害さないような対応をしている	利用者一人ひとりの性格を把握し、その人にあった言葉かけや距離間を保ち、その人らしく生活が送れるよう、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。入浴や排泄介助は異性介助になる場合もあり、了承を得ているが、戸惑っている場合は人を替える等で尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おおまかなスケジュールはあるが、ご本人さんがやりたいことや希望することを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や状態に合わせて柔軟に対応している		

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	お化粧をされる方や身だしなみに気を遣われるかたは十分に行っていたが、また支援が必要な方にはお手伝いしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りの食事で家庭的で温かい食事を提供している。また朝は野菜切りや下ごしらえを一緒にし、配膳時にはなるべく手伝ってもらっている	3食とも事業所で職員が作っている。献立は本部で管理栄養士が作成したものを使用している。利用者はもやしの芽をとったりごぼうのささがき、ねぎを切る等手伝いをしてる。又、テーブル拭きや配膳の手伝いをしてる。職員も利用者と同じ物を同じテーブルで会話や食事介助をしながら一緒に食事をしてる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	病気のために主治医から制限を受けている方もいるが、一人一人の状態や習慣に合わせて応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科からの指導を受け、口腔ケアの困難な方、一人では十分に清潔が保てない方への口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入し排尿や排便のタイミングを掴んでいる	排泄チェック表や個人記録等から利用者お一人おひとりの排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導をする事で排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。おむつ使用者でも夜間は居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳や野菜ジュースなどをご持参いただくようにご家族にも協力をお願いし、水分摂取に努めたり、軽い運動を行うように体操の時間、歩行の時間を設けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2日に1回は入浴が出来るように支援している、また拒否などがあれば順番をずらすなどして工夫している	入浴は2日に1回で利用者の体調や気分を見ながら入浴の支援をしている。体調を見ながらシャワー浴や清拭等の対応もしている。入浴拒否の方には時間をずらしたり、職員を変えたりして入浴して頂けるように、個々に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床時間は各自バラバラで自由に設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬困難事例があり、主治医、薬剤師と連携し簡易懸濁法で服薬を行うように繋げた		

グループホームさくら(西)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の中でもタオルなら畳める、拭く作業なら出来るなど、一人一人に応じた役割を遂行し残存能力を生かすことが出来るように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昼食後に散歩の習慣がある方への対応やご家族と一緒に外出をするなど個別に対応していただけるよう努力している	利用者は職員と一緒に気候の良い時は近隣を散歩したり、日々の買い物でコンビニへ出かけている。家族の協力で自宅へ帰ったり、法事に出席したり外出に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込み許可はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	場合によっては、ご家族への電話を繋いだり気軽に連絡は取れるようにしている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天井が高く、開放感がある。自然光を取り入れ明るい雰囲気になっている。季節の花や壁画を飾って心地の良い場所になっている	ダイニングは天井が高く、天窓がついていて明るく開放的で食事を作る音や匂いを感じることができ家庭的である。季節の花を飾り利用者と一緒に作った壁画やちぎり絵を掲示し季節感を演出している。又、エアコンで温度調整をし空気清浄機や加湿器で湿度調整をし、感染予防対策にも力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでテレビを自由にみたり出窓の長椅子で利用者同士で会話したり隣の棟へ自由に行き来できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダンスやテレビ、ベッドなど今まで家で使用されていた物を持ち込んで生活できるようにしている	居室には、季節を感じられる花や飾り物、人形・椅子・テーブル・筆筒・テレビ・神棚・家族の写真・折紙等使い慣れた物や懐かしさを感じる物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下は広くとってあり、歩行者やシルバーカーが安全に強いよう出来るように配慮してある。また手すりを設置して安全にも配慮している		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リビング内に理念を掲げて職員全員で理念の共有を行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	秋の大竹祭りは雨のため参加できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	まだ行動には至っていない。地域で高齢者が多いため何か役立つことを探していきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度運営推進会議を実施しており、利用者の暮らしぶりや取組みなどを報告している		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町と連絡を取り、より良い関係が築けるようにしている、運営推進会議の時には出席をお願いしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症支援の観点からも拘束は行っていないが、居室窓の鍵の開閉についてはご家族と話し合い、目が離せない方などについては閉めさせていただくなどの了解を得たりしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今年度参加できなかった		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度を知るために必要に応じて学ぶ機会を設けている、めた制度を利用している入居者様もおられる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時は十分に説明しご理解、納得を戴いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン説明時面会時にご家族と話し、意見や希望はなるべく取り入れている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員に意見は幾一、施設長に報告している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間に関してはなかなか改善や変更することは難しいが、職員一人一人が気負いなく働けるように提案は続けていきたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修や社内研修を行い、合同ミーティング時に発表した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他ホームの管理者やケアマネとも交流を図り、意見交換をしている		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	時間がかかることはあるがご本人様の要望には必ず耳を傾けて時間を作っている。家と同じような生活が出来るようになるべく希望を叶えられるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に困りごとにも十分に聞き、また何くを希望しているのかもききながら、信頼関係を築いていく努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設がどのようなサービスが出来るかを説明したうえでどんな支援が出来るかを話し合い、情報を共有していけるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ミーティング時に、介護される側の立場になって意見を出し合ったりし、一方的な介護にならないように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家庭でのご様子と当ホームでのご様子が必ずしも一致しない場合があることもしっかり相談報告しながらご本人様への支援をしご家族に気持ちも大切にするように努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご近所のかたが訪問されることもあり、楽しい時間を過ごしてもらっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が支えあうという事も大切な支援であることを職員にも理解してもらい関わり合いを大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても面会に行ったり家族も相談に乗って関係を断ち切らないようにしている		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活環境を聞きながらご本人の意向も聞き本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活環境は入居時前の情報提供書だけではわからないことが多いため、ご家族にも情報を求めながら支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人ずつ「生活の記録」に記録をしその日何をされていたかを明記している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは作る前にはご家族にも相談し要望などを聞いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「生活の記録」に日々の様子やそれに対する職員の対応も記載して、何か課題になるようなことがあれば、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	例えば、個別に買い物にお連れしたり、散歩したい時間に散歩に出るようにしたり臨機応変に対応できるように努力はしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の生活が拡充のために地域資源を活用し暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しており希望があれば他の病院に受診している、また在宅時からのかかりつけ医を利用されている方もあり自由にかかりつけ医を決めてもらっている		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護師、協力病院の看護師に相談・指導をうけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携で情報を細かく報告・伝達し希望に添えるように努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族と医師との話し合い後、職員と家族との話し合いをして希望に添えるように努力している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の行動をシミュレーションし急な状態変化に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂き、その後も職員のみで確認するなどしている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々にあった声掛けをしその方が気分を害さないような対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おおまかなスケジュールはあるが、ご本人さんがやりたいことや希望することを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や状態に合わせて柔軟に対応している		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧をされる方や身だしなみに気を遣われるかたは十分に行っていたり、また支援が必要な方にはお手伝いしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りの食事で家庭的で温かい食事を提供している。また朝は野菜切りや下ごしらえを一緒にいき、配膳時にはなるべく手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	病気のために主治医から制限を受けている方もいるが、一人一人の状態や習慣に合わせて応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科からの指導を受け、口腔ケアの困難な方、一人では十分に清潔が保てない方への口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入し排尿や排便のタイミングを掴んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳や野菜ジュースなどをご持参いただくようにご家族にも協力をお願いし、水分摂取に努めたり、軽い運動を行うように体操の時間、歩行の時間を設けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2日に1回は入浴が出来るように支援している、また拒否などがあれば順番をずらすなどして工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床時間は各自バラバラで自由に設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	手に渡して服薬できるか、または口の中に薬を入れて差し上げるかの判断を行いそれに応じて服薬している		

グループホームさくら(東)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の中でもタオルなら畳める、拭く作業なら出来るなど、一人一人に応じた役割を遂行し残存能力を生かすことが出来るように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族と一緒に外出をするなど個別に対応していただけるよう努力している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込み許可はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	場合によっては、ご家族への電話を繋いだり気軽に連絡は取れるようにしている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天井が高く、開放感がる。自然光を取り入れ明るい雰囲気になっている。季節の花や壁画を飾って心地の良い場所になっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでテレビを自由にみたり出窓の長椅子で利用者同士で会話したり隣の棟へ自由に行き来できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやテレビ、ベッドなど今まで家で使用されていた物を持ち込んで生活できるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下は広くとってあり、歩行器やシルバーカーが安全に強いよう出来るように配慮してある。また手すりを設置して安全にも配慮している		

グループホームさくら(西)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームさくら(西)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

グループホームさくら(東)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームさくら(東)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 平成 30 年 2 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	虐待予防の講習に参加できなかった	講習への参加と虐待を根絶できるように職員への研修を行う	新人職員を対象に参加できるように体制を整える	6 か月
2	4	運営推進会議にご家族が参加できなかった	近隣の住民の方々にも参加頂きグループホームの必要性や活動意義を知って頂けるように努力する	事前に参加を打診する	6 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。